

代表質問

5月定例会では、中島規夫議員(鳥取県議会自由民主党)が、県行財政上の諸問題について、会派を代表して質問を行いました。

鳥取県議会自由民主党

選挙区 鳥取市
中島 規夫 議員



熊本地震を教訓とした再点検

問 熊本地震における様々な課題を教訓として、地域防災計画の見直しを含めた本県の防災対策の再点検を指示したとのことだが、どのような点を特に大きな課題として認識し、今後重点的に取り組んでいこうと考えているのか。

答 必要な物資を道の駅はわいに集結させる計画を作っているが、物流業者の考え方も入れながら、もう少し分散させて、避難所にきちんと届き得るシステムを考える必要がある。併せて、福祉避難所の確保や車中避難への対応に向けて、地域防災計画やBCP(※)を見直していきたい。また、企業BCPをどう働きかけていくかも課題である。

鉄道高速化の方向性

問 平成26年から着手しているフリーゲージトレインの導入可能性調査の結果が出ており、膨大な改良工事費に対して投資効果が薄いと思われるが、今回の調査結果を受けて、フリーゲージトレインの導入を今後とも検討していくのか、所見を伺いたい。

答 我々も検証作業を始めたところであり、どういふ今後の方向性が考えられるか検討していきたい。併せて、北陸新幹線の舞鶴ルートも検討される中、山陰新幹線の早期整備を目指す国会議員連盟もできたところであり、まずは今般の調査結果を検証し、各方面の動きも横にらみしながら、検討を進めていきたい。

地域医療構想について

問 超高齢社会における持続可能な社会保障制度の確立に向けて、地域医療構想の策定が求められている。この中で将来必要な病床数について、国の画一的な算定方法によれば、現在の7,258床から5,892床へ1,366床の減少となっており、本県独自の推計値7,210床と大きく乖離している。地域医療構想の中で、必要病床数をどのように位置

づけるのか、国の推計値をどう取り扱うのか、所見を伺いたい。

答 国の試算は一つの参考的な数字として地域医療構想の中で提示することになると思うが、それに縛られるものではないと考えている。大切なのは高齢化が進んでいる鳥取県で必要な医療提供体制が確保されることであり、単純に国の数字に向けて削減するような方策はとるべきではないと考える。

地域エネルギー資源の有効活用

問 県は再生可能エネルギーの一つとして、バイオマス発電の推進に取り組んでいるが、治山工事等が出る木材や森林整備で出る間伐材のうち、幹の部分は燃料として利用されているが、枝葉や根など40%相当は有効活用されていない。この40%部分と果樹剪定枝や竹材等も含めて、有効活用すべきではないか。

答 本県としても、始末に困っている果樹の剪定枝など、新たな需要開拓として支援スキームをつくったところ。根っこを活用するアイデアもあり、木質バイオマスチップの搬出に向けて、今年度あらためて未利用材の活用を研究することとしており、関係者と協議を始めようとしている。

今後の美術館整備検討の方向性

問 知事は議場において県民の合意を得るために丁寧なプロセスを踏んでいく必要があると答弁されているが、教育委員会が実施する県民意識調査を含め、どのような条件がそろえば美術館整備に踏み込んでいくよう判断されるのか。

答 まず、美術館の必要性と美術館をつくるべきと考える理念が確立され、県民の間で共有されなければならない。2つ目として、実現可能な具体的なスキームをつくる必要がある。その中で、PPPやPFIの必要性を検証することが望まれている。3つ目として、教育委員会が実施予定の県民フォーラムの開催や、県民意識調査の実施などを通じて、県民が現時点でどう捉えているのか、支持が得られるかどうか、十分に見せていただきたい。この3つがそろって初めて機が熟したということになり、県議会に対して、今後の財政運営も含めて提示をし、協議をすることになると考えている。

※BCP ……事業継続計画